

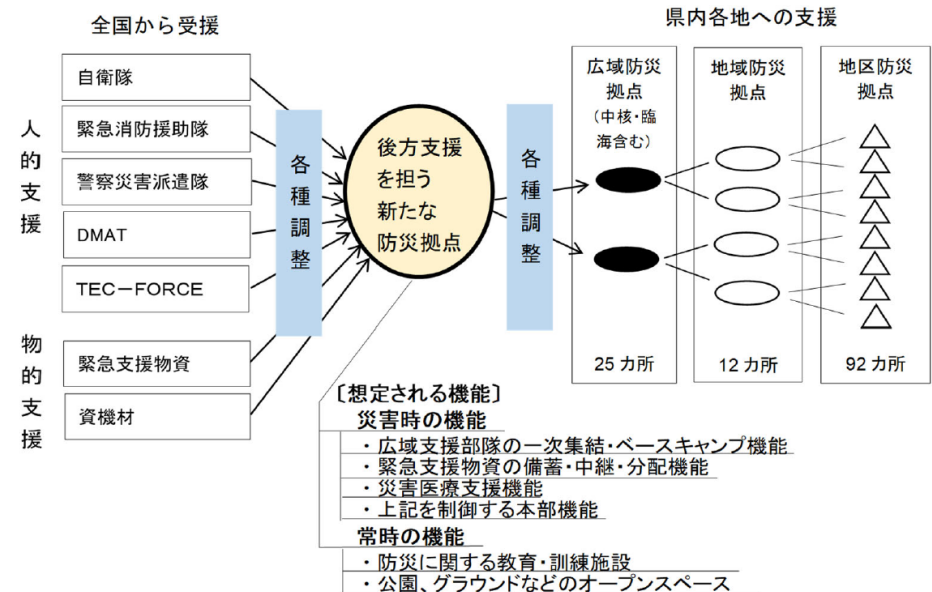
2020/11/20

愛知県防災安全局防災部消防保安課
消防学校・防災拠点 G

後方支援を担う新たな防災拠点の整備について

1 背景と目的

- 災害時に、県民の生命と財産を守り、被害を最小化していくためには、**発災後、直ちに救出・救助部隊を投入するとともに、緊急支援物資の輸送や応急復旧活動を展開することが重要**である。
- 愛知県では、市町村と協力し、これまでに約 130 箇所の防災拠点を確保し、県内全域の災害応急体制を整えてきたが、南海トラフ地震やスーパー伊勢湾台風等、**広域かつ甚大な災害が発生した際には、全国から人員・物資等の支援を受け入れ、被災現場や地域の防災拠点に迅速かつ的確に供給する後方支援が必要**である。
- このためには、地震動や液状化、津波や高潮等による被災リスクが低く、かつ高速輸送が可能な空港や高速道路網に直結し、活動要員のベースキャンプ機能、緊急物資の備蓄と中継・分配機能、及びこれらを統制する本部機能を合わせ持つ、「**新たな防災拠点**」を整備していくことが重要である。
- 平時は、人員・物資の集結・集積用地を公園やグラウンド等として広く活用するとともに、本部機能を担う中核施設は、防災に関する教育・訓練施設として 24 時間の危機管理体制を確保することも重要である。



- 以上を背景に、全国の防災機関と連携・連動して災害対応活動を展開していくため、後方支援を担う「新たな防災拠点」の整備に向けた検討を進めている。

2 後方支援を担う新たな防災拠点の検討状況について

(1) 検討会の設置(座長: 福和 名古屋大学減災連携研究センター長)

- 学識者と防災関係機関(国、自衛隊、県警察、名古屋市、岡崎市)で、場所の選定、防災拠点の機能や規模を検討するため、本年1月24日、「後方支援を担う新たな防災拠点の整備に関する検討会」を設置

(2) 場所の選定

① 候補地

- 高速道路や高速輸送が可能な空港に隣接する「名古屋空港北西部」、防災対応スキルを持った職員等が常駐している既存の「県消防学校」、「名古屋市消防学校」を比較

② 選定の視点

- アクセス性 ~ 航空輸送・高速道路輸送のダブルアクセス
- 災害リスク ~ 地震動・液状化、高潮・浸水等
- オープンスペース確保の可能性 ~ 部隊の集結や物資の集積

③ 選定結果

- 3つの候補地を比較検討した結果、名古屋空港と名古屋高速道路に直結し、災害リスクが低く、市街化調整区域農地の活用によるオープンスペースの確保が可能な「名古屋空港北西部」を理想的な場所として選定した。

(3) 今後の検討項目

- 以下の観点から、機能や規模等の検討を行い、関係機関との調整を進める。

① 機能

- 「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画(2015 内閣府)」に基づき、『愛知県全域を対象とした後方支援機能』を確保する。

② 規模

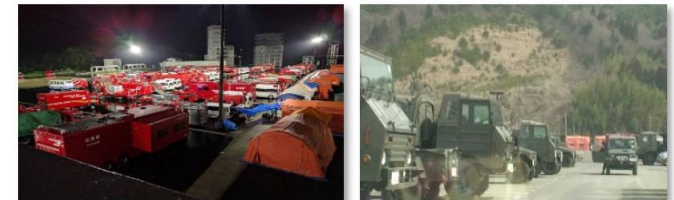
- 全国から派遣される救出救助要員(消防・警察・Tec-Force・自衛隊等)の宿営計画に基づき、ベースキャンプとして必要なオープンスペースを確保する。
- 発災3日間の県内不足物資の備蓄、4日目以降の国プッシュ型支援物資の受入、県内全域への供給に必要な大型物資ターミナル施設を確保する。

③ レイアウト

- 都市計画マスタープランとの整合、空港への直結、名高速・(国)41号とのアクセス等を考慮し最適なレイアウトを検討する。



▲候補地「名古屋空港北西部」



▲救出・救助部隊の集結・宿営



▲支援物資の受入・配送

▲広域医療搬送

○引き続き、「名古屋空港北西部」を候補地として、機能・規模・レイアウト等の検討を行い、関係機関と調整を進める。